

公益社団法人 日本経営工学会
第 32 期第 1 回理事会議事録

日 時：平成 25 年 7 月 13 日（土）、15:00～18:15

場 所：慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 2 階小会議室

出席者：（理事）河野宏和、高橋勝彦、二ノ宮滋、篠田心治、松林伸生、西口宏美、伊呂原隆、
後藤正幸、中出康一、熊谷敏、有菌育生、皆川健多郎
（監事）開沼泰隆、水山元

欠席者：（理事）石井和克

議決事項

1. 第 31 期第 12 回理事会議事録の確認の件

庶務担当理事より、(資料:1-1)に基づき第 31 期第 12 回理事会議事録（案）が提示され、議事録として全会一致で承認された。

2. 第 32 期第 1 回臨時理事会議事録の確認の件

庶務担当理事より、(資料:1-2)に基づき第 32 期第 1 回臨時理事会議事録（案）が提示され、議事録として全会一致で承認された。

3. 入会承認の件

会員担当理事より、(資料:1-3-2)に基づき、正会員 3 名、学生会員 1 名の入会申請が報告され、全会一致で承認された。

あわせて、(資料:1-3-1)に基づき、平成 25 年度会員異動報告がなされた。過去 5 年程度の会員異動状況から、どのような会員が減少し、どのような会員が増加しているか、特に学生会員・賛助会員へのフォローの状況について、会員委員会にて傾向のデータを収集し、今後の理事会での議題とするよう会長から要請があった。

4. 第 32 期支部長承認の件

支部担当理事より、(資料:1-4)に基づき、第 32 期支部長候補者が報告された。北海道支部については、北海道・東北支部という形で活動を統合していくため、北海道支部長はなしと確認され、全会一致で承認された。

5. 第 32 期委員会委員の件

庶務担当理事より、(資料:1-5)に基づき、第 32 期委員会委員が報告された。理事が担当外の委員会の委員になることについて、一般法人法において、利害関係がある場合には議決権なしと定められていることから懸念が示された。また、委員会規則第 5 条により重任は原則 2 委員会まで定められているが 3 委員会に名前が挙がっている会員がいることが問題提起された。理事の担当外委員会委員就任については必要に応じて議決から外れること、3 委員会への重任については人材不足から例外として認めることを付議し、全会一致で承認された。委員会委員の重任の上限については、必要があれば第 32 期の終盤に改めて議論することとした。

6. 各研究部門の役員名簿の件

研究担当理事より、(資料:別紙 1-1)に基づき、各研究部門の役員が報告され、研究部門幹事とともに全会一致で承認された。

7. 論文誌 J-Stage への移行の件

編集担当理事より、(資料:1-6, 別紙 1-4)に基づき、論文誌の J-Stage への移行について報告された。J-Stage による電子ジャーナル公開開始時期について、Vol.64 の各論文に DOI が付与されること、DOI が付与されることで学会の論文誌のステータスが上がること、今期からアクセス統計を確認できることがメリットとして確認され、Vol.64, No.1 (2013 年 4 月号) から J-Stage に移行することが全会一致で承認された。J-Stage での公開のための編集コストの負担については、論文掲載数増加による印刷コストの減少傾向が見られたため、委員会にて協議し、次回の理事会で議論することとした。

8. 経営システム誌 著作物利用許諾書の変更の件

編集担当理事より、(資料:1-7)に基づき、著作物利用許諾書の著作権法第 18 条から第 20 条までの権利の不行使を求める文面について、実情より強すぎる文面のため、記載の変更が提案された。著作者人格権を行使された場合のダメージの大きさが指摘され、議論の結果、当面は該当の文面を削除し、同文面のもととなっている著作権規則第 6 条についてはワーキンググループを立ち上げ、専門家を含めて見直しを検討することを全会一致で承認した。

9. 論文誌 非会員著者への論文誌進呈の件

編集担当理事より、(資料:1-8)に基づき、非会員著者への論文誌進呈について提案され、著者が全員非会員である場合には、筆頭著者に掲載論文誌 1 部を進呈することを全会一致で承認した。

10. 論文誌、並びに経営システム誌の位置づけの件

編集担当理事より、(資料:1-9)に基づき、両会誌の目的および位置づけについて確認したいとの要請があり、論文誌は JIMA の研究成果をスピーディーに発信すること、論文をアーカイブすること、経営システム誌は学会員に有用な情報を提供すること、企業の実務家にも有用な情報を発信し寄稿してもらえるようにすること、JIMA の広報ツールとして活用することが目的であることが確認され、確認内容について、全会一致で承認した。

11. 他団体年会費支払いの件

国際渉外担当理事より、(資料:1-10-1, 1-10-2)に基づき、他団体への年会費支払いについて報告された。他団体の事業報告および事業計画は今後も継続して精査していくこととし、今年度の支払いを全会一致で承認した。

12. その他

なし

協議事項

1. 支部委員会協議事項について

支部担当理事より、(資料:1-11)に基づき、支部委員会での検討内容が報告された。支部 HP の状況改善について、支部独自の更新が難しい場合には事務局と連携し定型に沿った内容で更新を行うことが確認された。支部企画等の学会メールマガジン掲載については、庶務委員会のメルマガ担当の負荷の増大が懸念され、まずは記事のボリュームがどのくらいになるのか示し、検討していくこととし、上記 2 点を進めていくことが全会一致で承認された。また、支部運営費の振込については、原則として一括振込はせず都度活動内容に応じて振込を行う方針が確認された。支部運営費の取扱いおよび支部再編については、支部委員会で意見を吸い上げ、支部のニーズを確認することが会長から要請された。

2. 複数研究部門所属者への対応について

研究担当理事より、複数研究部門所属者への部門年会費の請求について説明がなされ、是非が協議された。研究の活性化のため、原則は単一の所属であるものの、積極的に複数に参加されるのであればこれを妨げるべきではないとされ、当面の間、部門年会費は請求せず、細則の変更を視野にいれて継続審議することとした。

3. 事務局の理事会出席とその費用について

財務担当理事より、事務局の理事会出席とその費用について報告がなされ、国際文献社と取り交わしている業務委託契約に基づき、理事会陪席および議事録案作成の委託が全会一致で承認された。

4. その他

● 学会情報の伝達について

庶務(広報)担当理事より、(資料:別紙 1-2-1, 別紙 1-2-2)に基づき、学会情報の伝達について、長期間更新されていないページや掲載されていない開催報告などがあり、会員ではない一般の方向けの学会の広報が進んでいないという問題が提起された。過去のイベント等、掲載されていないものについては、庶務(広報)担当理事が主導し Web に公開していくことが全会一致で承認された。

● 理事会の議案の進め方について

庶務担当理事より、理事会の議案の進め方について、最重要事項および緊急的なものを優先的に議決事項とし、そうでないものは協議事項とする方針が示された。ただし、協議事項も議論の上、合意が得られればその場で承認することが確認された。また、資料の作成について、特に議決事項においては「何を議決するのか」を明確にすることが要請された。当日配布の理事会資料について、資料番号をつけた上でアーカイブし、配布して欲しいとの意見があり、後日事務局から配信することとした。

● 特定費用準備資金「産業連携事業推進準備金」に関する細則の制定について

財務担当理事より、(資料:1-12)に基づき、特定費用準備資金「産業連携事業推進準備金」について報告された。6月末までに内閣府に提出しなければ前年度の余剰金を繰り越すことができず、その間に理事会の開催がなかったため、現在は会長承認の上で仮に同細則を内閣府に申請してあるという状況が説明され、これを追認する形で、全会一致で承認した。

報告事項

1. 会員担当理事より、(資料:1-2)に基づき、退会について報告がなされた。
 2. 国際渉外担当理事より、(資料:1-10)に基づき、協賛行事について報告がなされた。
 3. 大会担当理事より、(資料:1-13, 別紙 1-3)に基づき、2013 年度春季大会決算と 2014 年度全国大会について報告がなされた。
 4. 企画行事担当理事より、(資料:1-14)に基づき、60 周年記念事業「ものづくり事典」の状況について報告がなされた。
 5. 編集担当理事より、(資料:1-15)に基づき、第 32 期日本経営工学会論文誌エリアエディタについて報告がなされた。
 6. 編集担当理事より、(資料:1-16)に基づき、掲載料・別刷代請求一覧の報告がなされた。
 7. その他
- 編集担当理事より、(資料:別紙 1-5)に基づき、論文誌、並びに経営システム誌の掲載記事の転載について報告がなされた。

※懇談 「活性化」と「国際化」について

(資料:別紙 1-6-1, 別紙 1-6-2, 別紙 1-6-3)に基づき、「活性化」と「国際化」について懇談を行った。活性化については平成 25 年度秋季研究大会から開催を予定しているラウンドテーブルを中心に、国際化については海外へのアピールや大会での特別セッション開催を中心に意見を交換した。懇談の結果、ネットワーキングの前に単独で特別イベント枠を取り、1 時間半程度のセッションを開催することを決定した。具体的な内容については、全員参加が望ましいが強制参加は難しく、出たい人だけではあまり人数が集まらないとの懸念、イントロダクションに続いてディスカッションに移るほうが参加しやすい、「活性化」と「国際化」にテーブルを分けてディスカッションすべき等の意見があり、大会委員会が秋季大会主催校と調整しつつ、次回の理事会で検討することとした。

※次回第 32 期第 2 回理事会は、平成 25 年 9 月 14 日（土）15:00～、慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎 2 階中会議室にて開催する。

議 長 河野 宏和 印

議事録署名人 開沼 泰隆 印

議事録署名人 水山 元 印